

# HEART BLESS

DOJIN  
R18  
成人向け

18歳未満の  
購入・閲覧禁止

流石は伏見家様  
・・・  
今回も上玉じゃ

んじゃ早速  
楽しま…っと

助力させて  
いただくか

もわぁ…

種の仕込みと  
関係ねえ事も  
教え込んでええ  
言うとったけど

ほんとかいな

当主様の  
お墨付きじゃ

良え良え  
いえいえ

初めてのコレ  
気になって  
しょうがねエか

怖かねエで

舌先で  
舐めてみい

ん…

ん…

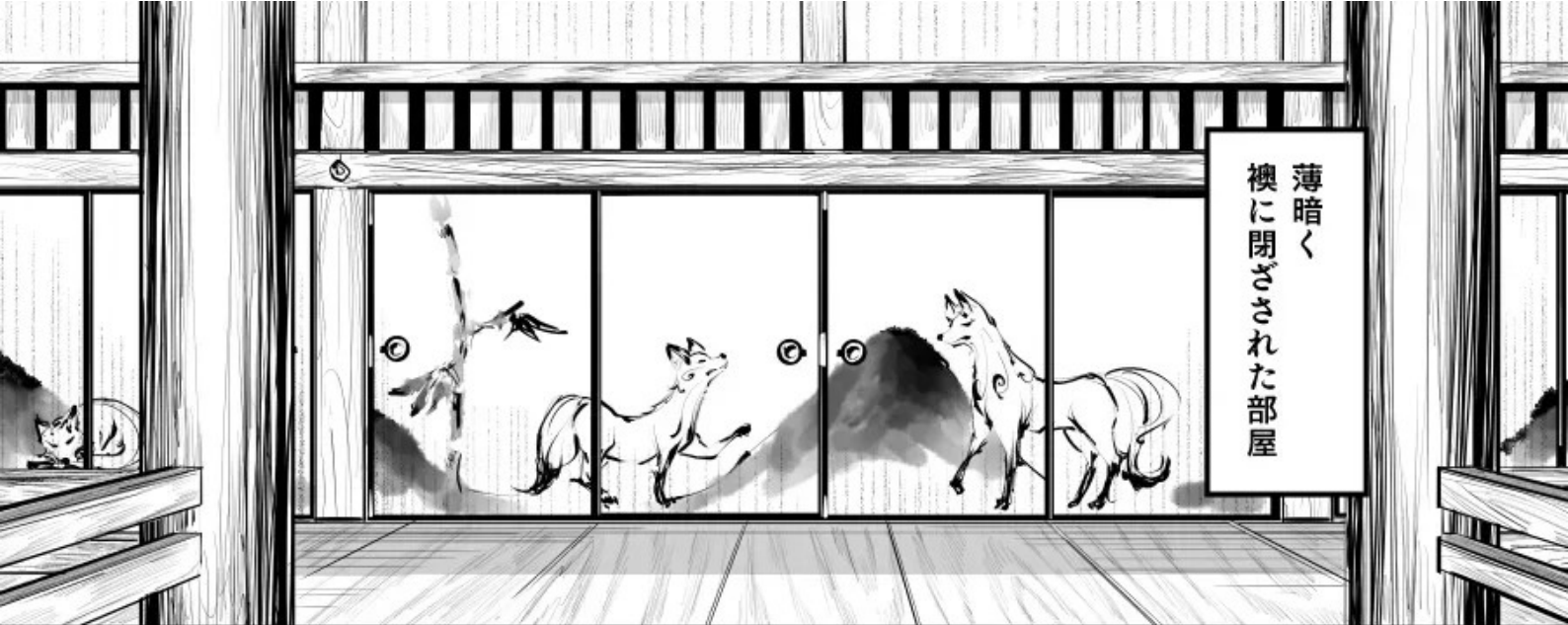
昨日まで  
里で会うても  
会釈する  
くらいの間柄

一夜で口淫まで  
お願いできる仲に  
進展してもうた

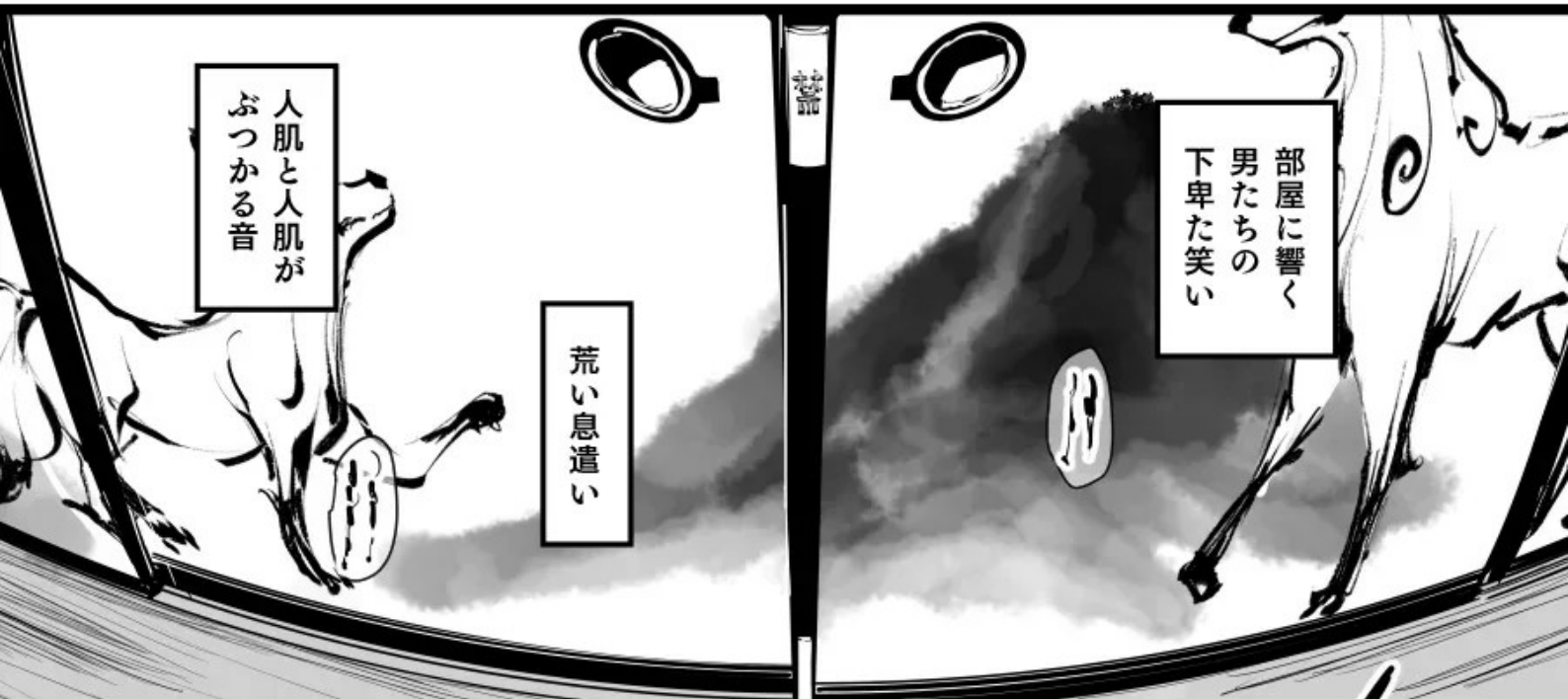
ガッ

おっと歯ア  
気いつけて  
くださるな

ん…



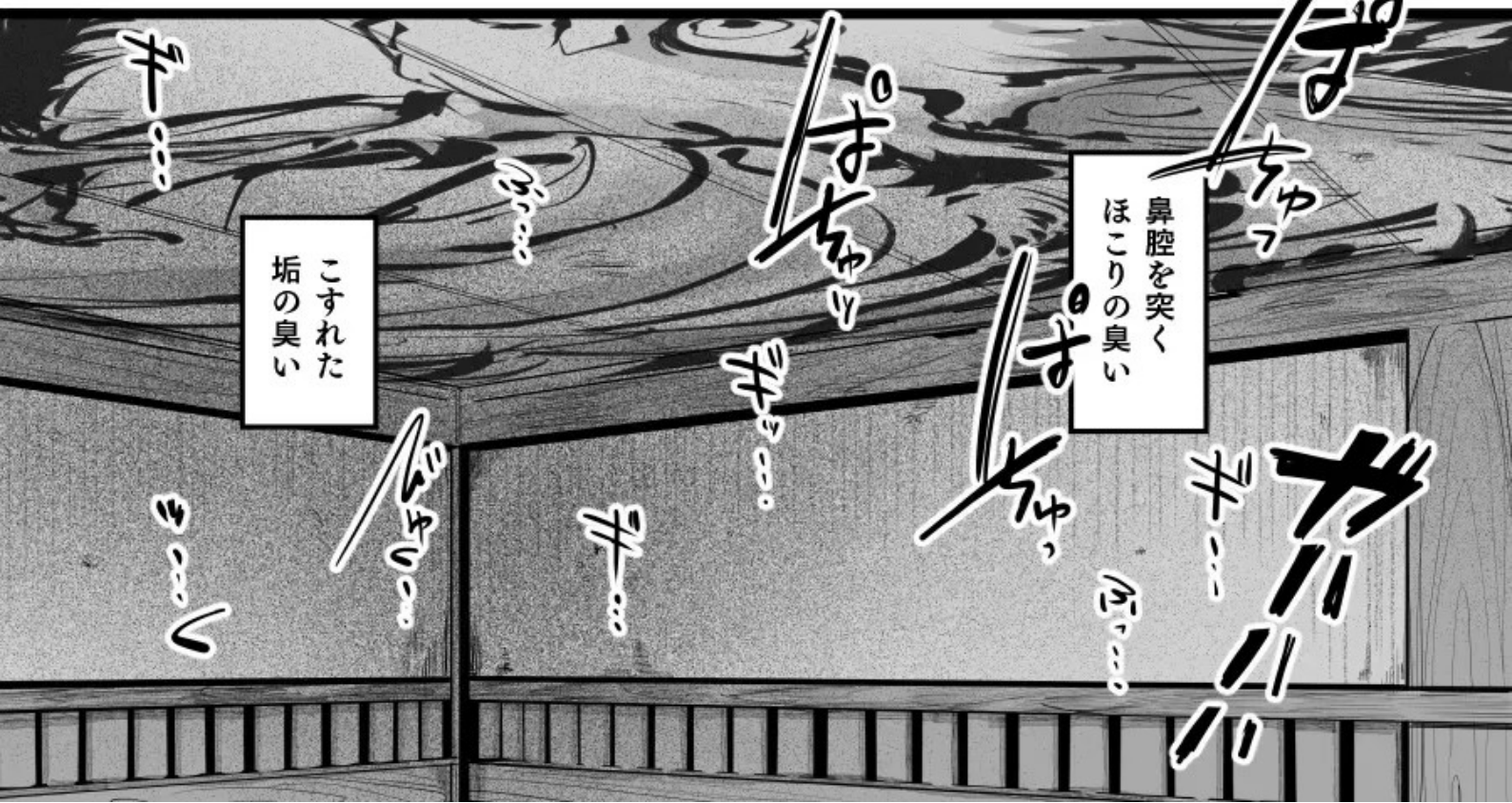
薄暗く  
襖に閉ざされた部屋



人肌と人肌が  
ぶつかる音

荒い息遣い

部屋に響く  
男たちの  
下卑た笑い



こすれた  
垢の臭い

鼻腔を突く  
ほこりの臭い



男女が  
交わる臭い

ふう…

アッ



この男たちを  
競わせ満たす  
ためだけの場

そう焦らんと  
代わってやるから

へへ…  
ひと月ぶり  
だからな…



出した  
出した

は…

ああ…ここは  
蟲毒なんだ

は…

おら  
早く代われ

ふん

ふん



私には  
視えるのだ

この  
目隠しの先

しかしまあっ

3333

333



もうちっと  
反応が欲しいがね

部屋の  
様子も

もう慣れて  
きたろうに

面をした  
男たちも

ぽん

ぽん

ぽん

ぽん

3333

3333



その面の下

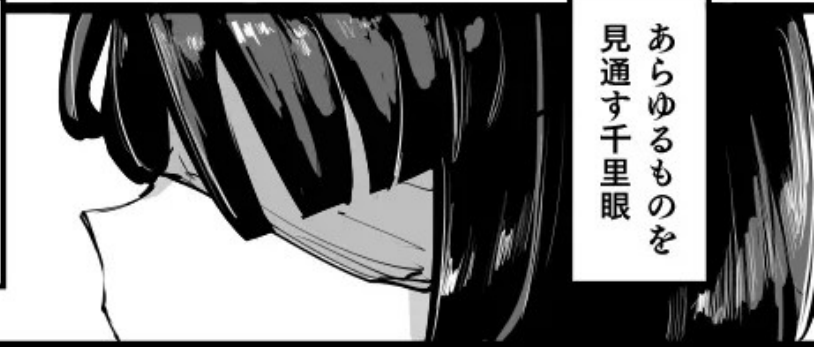
恨むなら  
俺らじゃ  
なくてっ

家を恨みなっ

カオ  
どんな表情を  
しているのかも




人ならざる視点




父は厳しい人  
だったが  
母はとても  
優しかった






母が亡くなった日  
私は一日中部屋に  
押し込められた




この日だけは  
千里眼を使うことを  
固く禁じられた

元々持病があった  
母は笑って  
逝ったのだと  
父は言っていた



襖の向こう

私は全部  
視ていた



幼心に  
この家は  
おかしい  
のだと  
思った

十の夏  
あの「準備」が  
始まった

皆はもう  
集まっている

挨拶しろ

先日<sup>おと</sup>十となる  
日を迎えました

伏見忠宗が娘  
伏見千津子と  
申します

へへ…  
ようやく…

ながらで良い  
皆の衆は査定を  
始めてくれ





強い子を成す  
ため…にはっ  
強い子種が  
必要で…す



ご存じの通りっ…  
この家…では…  
強きを重んじます

小そうて  
可愛らしいのう

キリエ様を  
思い出すわ



乳首も  
ピンと上を  
向いとる



より多く…の  
子種の中から  
最も優れた個を  
選出するため…っ

そげな  
怖がらんで  
ええ

来たる五っ…年後

十五となる日の…っ  
種仕込みに備え…

すぐ良くして  
やるでな



伏見家…  
延いては近隣…っ  
里の皆様…には

お力添え  
頂きたくっ  
…存じます

立派にお家の  
お役目こなして  
しっかりした  
子じゃあ



こっちは  
どうだ？  
ん？

…っ！

うはっ  
柔こいのう

こりや  
間違ひなく  
男を知らん穴だ

これから  
知ること  
なるけどな

ははっ  
んなもん  
知っとるわけ  
なからうが

儂らみてエ  
なんにも  
開放されて  
ありがてえ  
こった

ちと  
小便臭えな

ふっ

ふっ

はっ

はっ

はっ

はっ



喉も使えるように

まだ啜えきらんだろ

こっちは手でしごいてみてくだされ

そろそろ...っ射精すぞっ

ぎこちねえがそれが逆に...っ

まあ最初のうちは前戯からじゃのう

んで処女は誰が貰うんじゃ

それならもう決もうとる

今のうちからよう身体に染みつけとけ

そかそかそのうち恋しゅうてたまらんるでよ

はー！初心でええのう！

...美味しくない...です...

どうじゃ初めての子種は？

どうよ...

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん





ほんなら  
まあええか

あゝあゝ  
そげに中  
出しおって  
大丈夫  
なんか

当主様が  
初潮はまだ  
来とらん  
言うとったな

びしょ

※月水がきたら  
こうも  
いかんくなる

ぽん

めんどくせえな...  
そういう  
習わしじゃ  
仕方なからう  
逆に

※生理。



千津子っ  
もう一回っ

もう一回  
しようっ

ほとほとに  
しとけよお  
若様

それまでは  
好きなだけ  
中に出して  
ええってこった

ぽん



当主である父の  
相手をする日は  
人払いがされた

いいか  
千津子

これが本物の  
まぐわいだ  
雌を力で  
押さえつける  
雄の交尾だ...ッ

身体で  
覚えろッ...

しかし  
お前は...

ヒューン...  
ドクドク...



奥まで突き  
入れた時の  
反応も...

膣奥の  
具合もッ



抱いた時の  
においも...ッ

その容姿も  
声音もッ

ヒューン...  
ズン...



あれを初めて抱いたのもお前と同じ十のとき…

あれは…ッ  
いい女だった



お前の母に瓜二つだ…



お前も伏見家の女としてッ

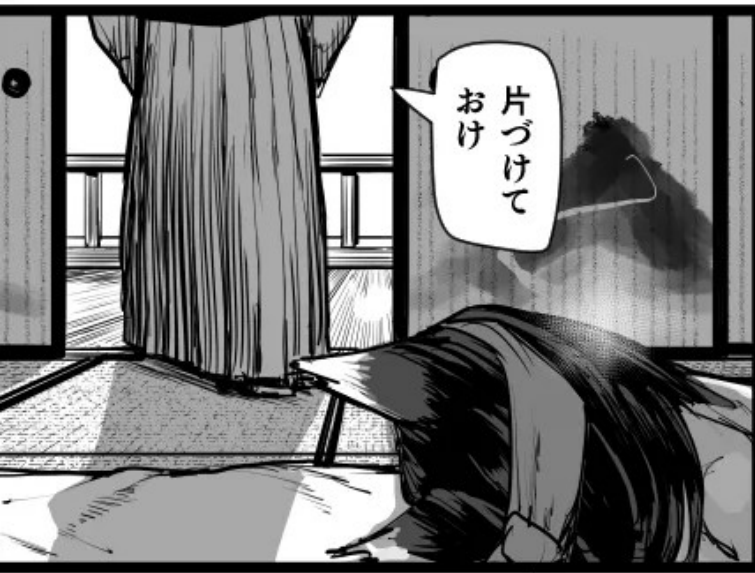
男を悦ばせ強き子を孕めること…

感謝ッ

つまるところこいつらは待っていたのだ



ズ



片づけて  
おけ



ママ

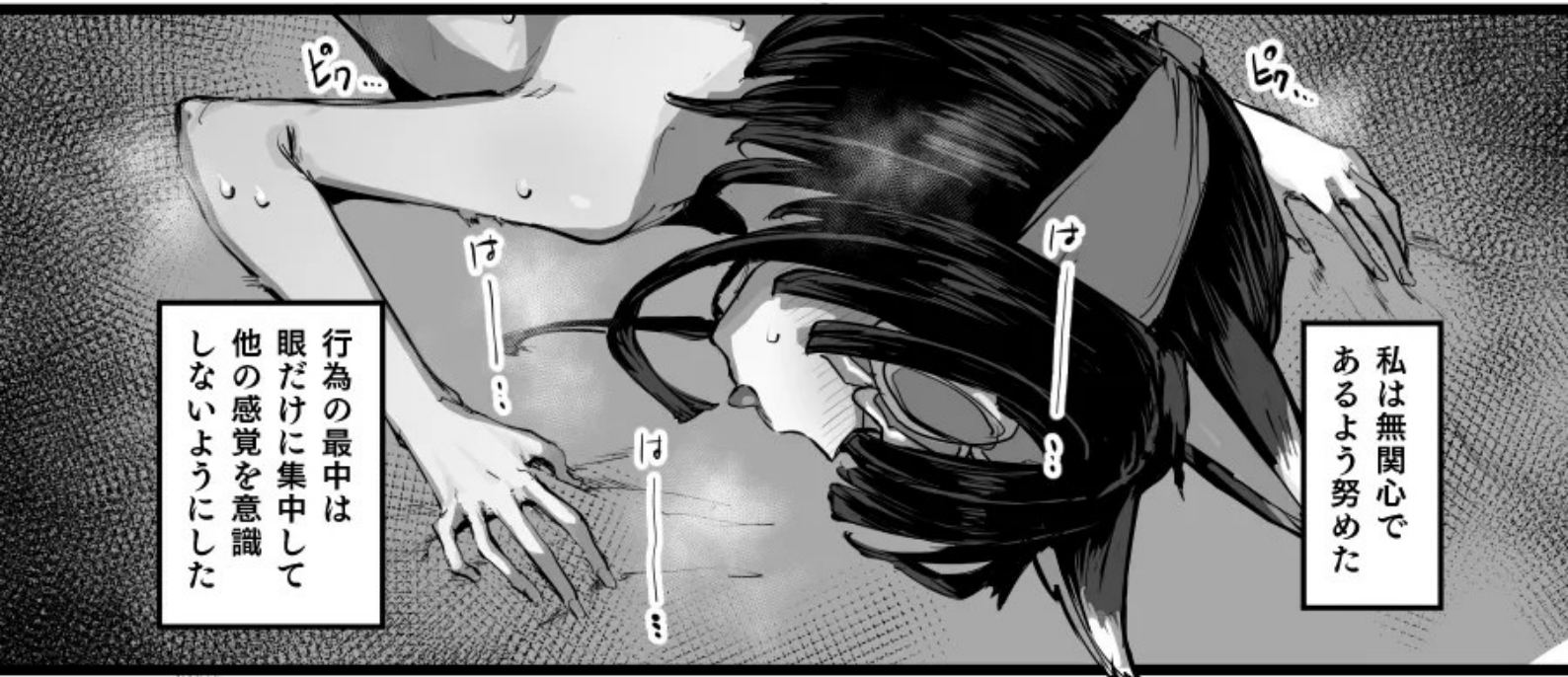
しゅわん

ん

ん

都合のいい女が  
母の代わりに  
使う物に  
なるのを

ん



ん

ん

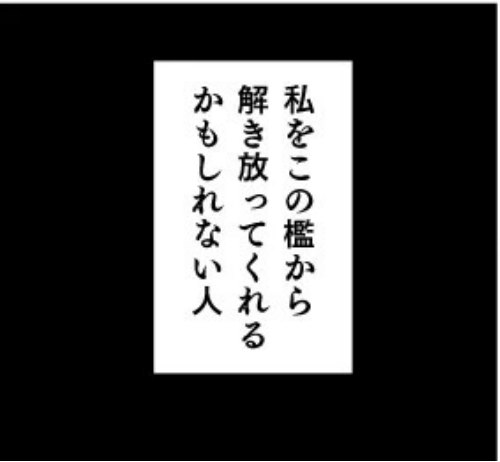
ん

ん

ん

行為の最中は  
眼だけに集中して  
他の感覚を意識  
しないようにした

私は無関心で  
あるよう努めた



私をこの檻から  
解き放ってくれる  
かもしれない人



最中  
この眼で  
視ていたもの

ん

ん

ん



叔父は  
弱い人だった

兄上！  
まだ千津子は  
十です！

この家では  
落伍者という  
扱いを受けていた



私は叔父を  
慕っていたし  
叔父は実の父の  
ように私と  
接してくれた



正解！



五…かな



けれど  
私の知る限り

この家で  
最も温かい  
人の心を  
持っていた

これは？



母が亡くなって  
からは週に一度

父には秘密で  
二人で母の  
墓参りに行った

母から私を  
頼まれたと  
よく言っていた



お前はそれを  
通せるほど  
強いのか？

んッ

んッ  
んッ  
んッ

しかしッ！

それが  
決まりだ



千津子には  
二度と  
会わせるな

しばらく  
幽閉しておけ

んッ

お前を  
助け出す!!

信じてくれ!!

千津子!!



きくと

けれど  
いつか

それがいつに  
なるかは  
わからない

三年が経った  
十三の秋

千里眼の噂が  
帝の耳に届き  
父と共に都へと  
呼ばれた

帝は大層  
千里眼に  
興味を持たれた

—千里眼の活用

—国の利益

—仙国

—夢魔

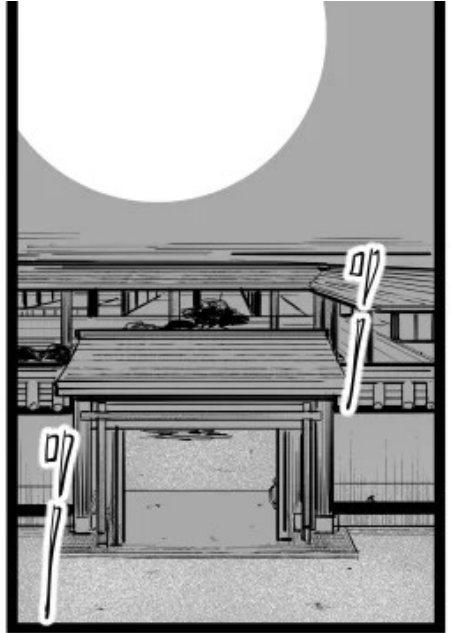
—不死の法

飛び交う言葉に  
私が出る幕は  
なかった

手配された  
屋敷への帰路

父は珍しく  
上機嫌だった

今晚人と  
会うとだけ  
言っていた





このとき  
私は

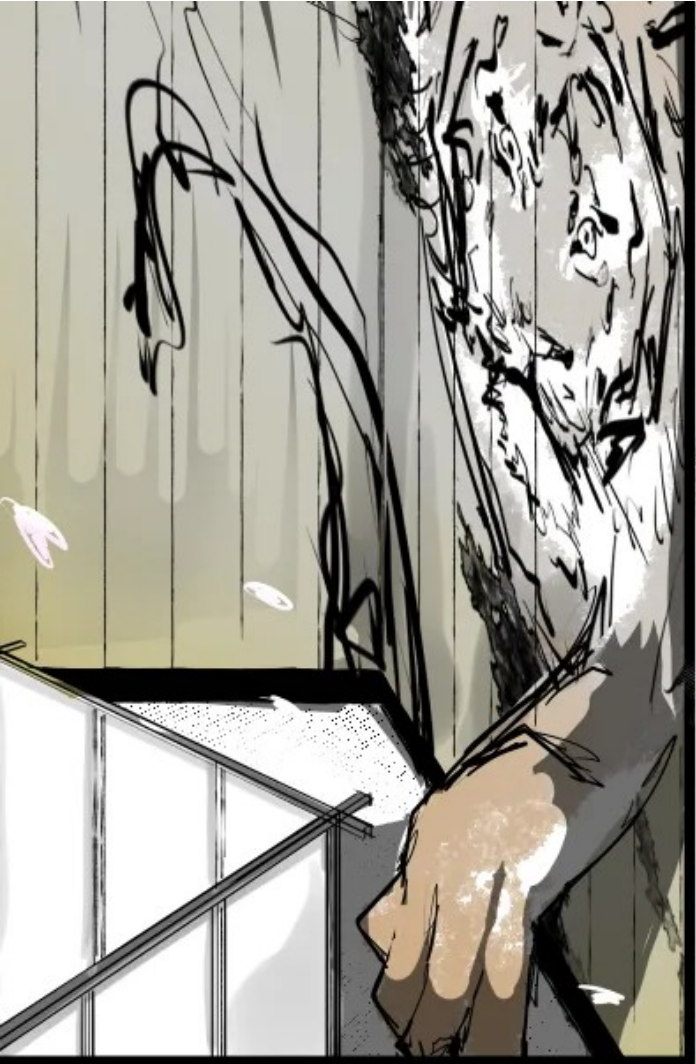




世界で一番  
美しいものと

世界で一番  
醜いものを

同時に見た



そう思った

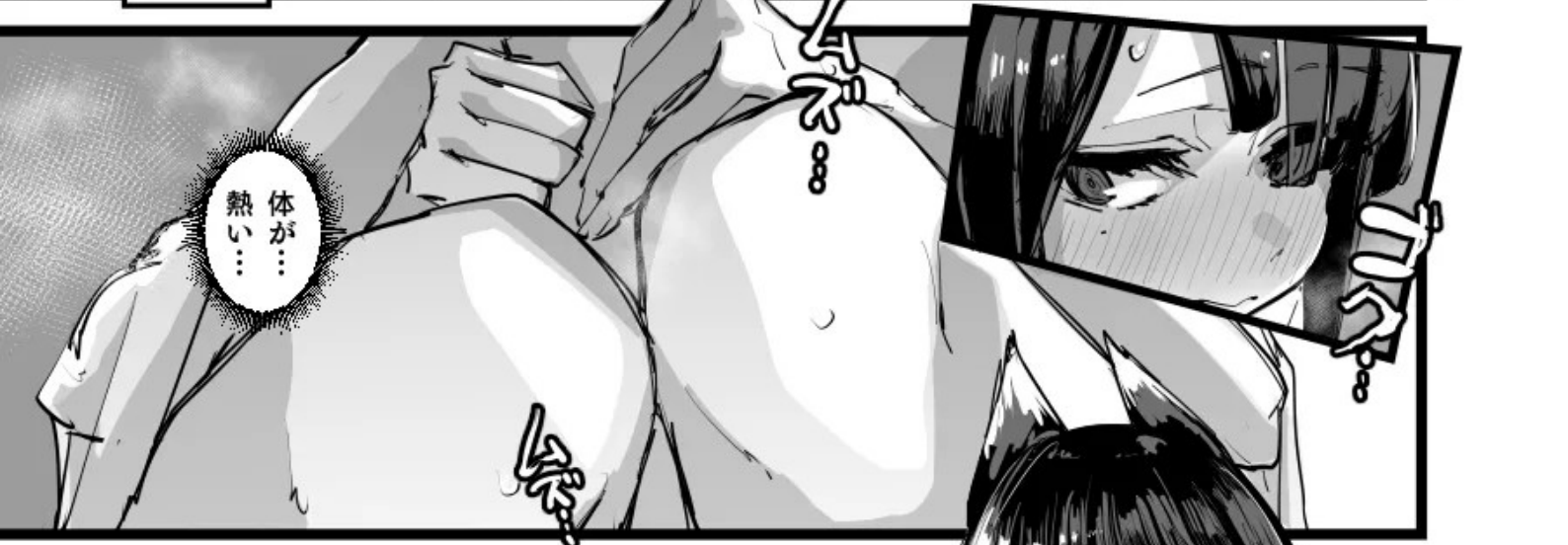
世界は  
こんなにも  
色鮮やか  
だったのかと



醜美二匹の  
生き物が蠢き  
絡み合い

一匹の生き物の  
ようになってる

その光景から  
目が離せなかった



体が...  
熱い...



こんなこと...

私は  
始めて

自分の意志で  
自慰をした

気持ち悪い  
だけなのに...

父はひたすら  
女に腰を打ち  
付けていた

片隅で自慰に  
ふける私に  
気づかぬほど  
夢中だった

女がこの空間を  
支配していた

情けなく腰を  
振らされる  
父を見る度

ぞくぞくと  
高揚感が  
背筋に走る

手…  
止ま…な…

息を吸う度  
色を帯びた芳香に  
脳髓を犯される

膣内を  
掻きまわす度

今まで拒絶して  
きた快樂の波が  
押し寄せてくる



抱かれながら  
父のすべてを  
呑み込むような

深くへと  
誘うような  
その振る舞いに

私は  
憧れを  
抱いた

私の大事な何かを  
書き換えていく  
決定的な憧れを

もう一回  
だけ...



誰に聞いても  
覚えがなかった



何度視ようと  
しても  
駄目だった

夢である  
はずがない

あれが



ただもう一度  
だけでいい

アム



貴女に…

里へと帰って  
きた私は

帝への拜調<sup>はいえう</sup>を期に  
目隠しを取る  
ことを許された

同時に男たちとの  
向き合い方は  
大きく変化した

うおっ!?

え

その…近頃は  
なんだか…

雰囲気  
が変わられ  
ましたな…

…目隠しを  
外したからでは  
ないですか?

積極的に  
なられた  
というか…

私は自ら  
望んで  
ここにいた

儂ら…としては  
そっちの  
ほうが…なあ!

お、おう!



ののなはの  
へてつっの  
へてひひ  
ひきふ  
はた

いえ

少し

うっ…  
そこ弱…

ひいひ知  
はまつつ  
ふすへて

射精るっ…!

たろ

たろ

たろ

たろ

たろ



よ、よく  
ご存じで…

三年も  
ありました  
から



貴方は…これ  
ですよ



…ここに  
通われる  
皆様の嗜好で

私が知らない  
ことなど何一つ  
ありませんよ

ん

しゅん

ん

この  
三年の間

そういや今日も  
門の前におっただよ  
あの頭のおかしな…

しっ！  
曲がりなりに  
当主様の弟君じゃ

自分たちが  
満足するため  
だけの術を  
仕込まれた

下手言わん  
ほうがええ

毎日懲りずに  
千津子様  
抗議しとらせるが…

今やその  
千津子様  
御自ら…

それは  
各々が  
好む趣向

そうとも知らず  
けったいなこった





あに  
義兄さまっ

千津子…っ

義兄さまは…

こういった  
趣向のほうが  
お好きな  
ようですね

ほら…普段より  
大きくなって  
いらっしやいます



私は  
その術を  
使い

時に応用し

各々が理想と  
する型に私を  
はめ込んでいく

ご自分の腹上に  
好きなだけ  
射精してください

SSですよ



もう私の  
味方だった

ゆっくりと  
時間をかけ  
少しずつ  
盛られた毒は

あの夜  
あの光景を  
見て以来初めて  
父と寝た

言葉はあまり  
交わさなかった

私に芽生えた  
ものとは裏腹に

あの御方なら  
どうしただろうか

私の身体は  
勝手に何度も  
絶頂した





その日から父は  
母と私を  
比べなくなった

父だけ  
ではない

まるで  
一人一人の  
愛人かの  
ように

一つ一つの  
肉莖に私を  
覚え込ませていく

各々の心で  
私の存在を  
大きくしていく

私は肌身で  
感じていた

この家の構図が  
この部屋から  
書き換えられて  
ゆくのを…



十四の冬



父が急逝した



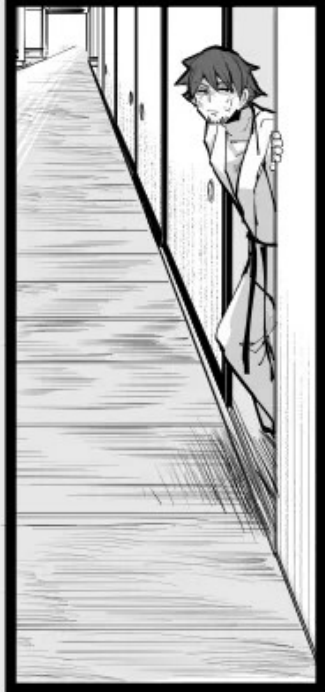


最低限の荷を  
まとめてくれ

タッ  
ッ

今晚のうちに  
ここを出る

話は後だ



…?

叔父さま

外は寒い  
羽織を一枚  
多めに…



私はこの家を出るつもりはありません







トーン

ピタッ



すまなご...  
驚いて...

ただ...

ハッ

ハッ

ハッ



お前と...

その...

そういった関係を  
持つつもりは...

おん

そっ  
それにっ!

俺とお前の  
仲なんだから

今更  
敬語なんて...



何故って…  
俺にとつて  
お前は…

実の子の  
ような…

そうですね



何故…  
拒むの  
ですか？

本来親と子は  
体の関係など  
持たぬもの

**お**！  
そうだ  
では…

……  
そうですね…  
困りました

けれどもう私は  
正常な倫理の元には  
いないのです

そんなことッ…！

もう一度  
お聞きします

何故私を助けて  
くれたのですか？

私を助けた  
かったから？

それとも…







よくご覧になつて下さい…

もうじき五年…

舐られ…抱かれ…  
犯され…騷られ…

大人に  
近づいた  
私の姿…

やめろ…



“実の子のように”

叔父さまは  
そうかも  
しれません

けれど私は…  
千津子は…

幼き頃より  
叔父さまの  
ことがずっと…

叔父さまに処女を  
差し上げることは  
叶わなくなつて  
しまいました…

父も家人も  
村の皆さまも



叔父さまも都合がよろしいですよ

そちらの穴のほうか…

それに…

丁寧に耕してございます

私自らじっくりと

まだ誰も手を付けていないおしりのあな不浄の穴

ああ…叔父さまに非はございません

やめるんだ…



やめろ

皆に聞こえてしまいます

れ…

自慰行為を勝手に覗き視た私が人でなしというもの

誰しも内に秘めた趣向の一つや二つございます

ドサッ

母さまは父さまの  
ものになって  
しまいましたか…

フム

千津子は  
叔父さまのもの

アハハ

しーっ

準備は  
できております

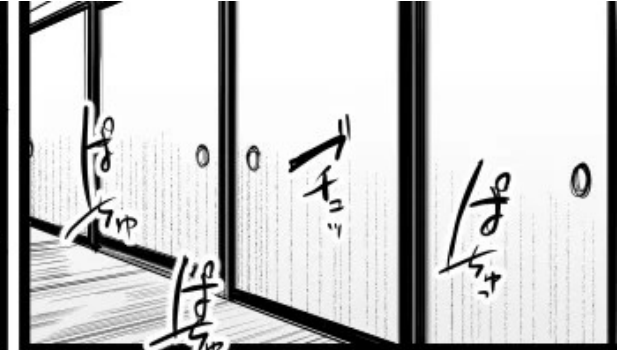
潤滑油で  
とろとろに  
ほぐれた

もう一つの  
雌の穴

叔父さまの  
コキ捨て穴に  
してくださいませ

叔父さま

はーっ



穴の具合は

いかが...?  
ですか?



叔父さまのためだけに

あはっ

クハッ

クハッ

クハッ



素敵…

お気に…召してっ…  
ただでっ…っ  
何よりっです…



アッパッパッ  
アッパッパッ  
アッパッパッ



アッパッパッ  
アッパッパッ  
アッパッパッ

叔父さまのっ…  
ものが…っ  
肉壁を掻き分け…



アッパッパッ  
アッパッパッ  
アッパッパッ

下から子袋を…  
押し上げッ…



引き抜く度っ

叔父さまを  
離したく  
ないとっ…

ぴったりと壁が  
吸い付いて…っ

お腹の中ごと  
引きずり出されて  
しまいそう…

背筋が  
ぞわぞわと…っ

ぽろ  
ぽろ

ぽろ

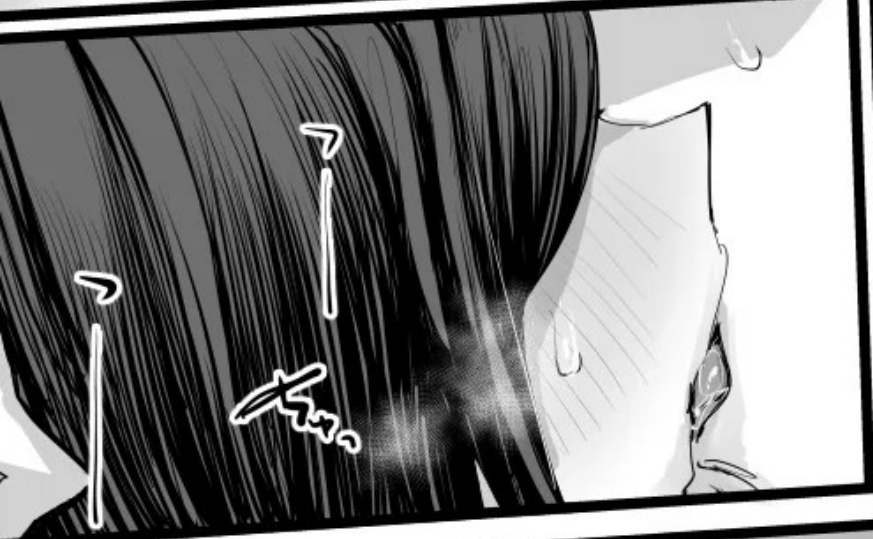
ぽろ



失礼いたします



ぽろ



あ…来る

昇って…

11, 14

13, 3,

13, 3,

13, 3,

叔父さまの  
精液…

注がれていく…

13, 3,

13, 3,



んっ…叔父…  
さまり、

まだまだ  
こんなものでは  
ありませんよね

知らなかった…

は  
は

は  
は

ゴッ  
ゴッ

ゴッ



本当に好きな人と交わることが

こんなにも満たされることなんて...

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ

ガッ



私が叔父さまの  
子を孕むことは  
絶対がない

たぶんこれが  
最初で最後  
なるから



ああ…好き

大好き…  
叔父さま…

だけど…

ニヤカニ

グッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ

カッ



はっ  
はっはっ  
はっはっはっ

はっはっはっ  
はっはっはっはっ

はっはっ  
はっはっはっ

はっはっ  
はっはっはっ

はっはっ  
はっはっはっ



いめんなご

はっはっ

はっはっはっ



千津子は...

叔父...さま...

千津子...

その...

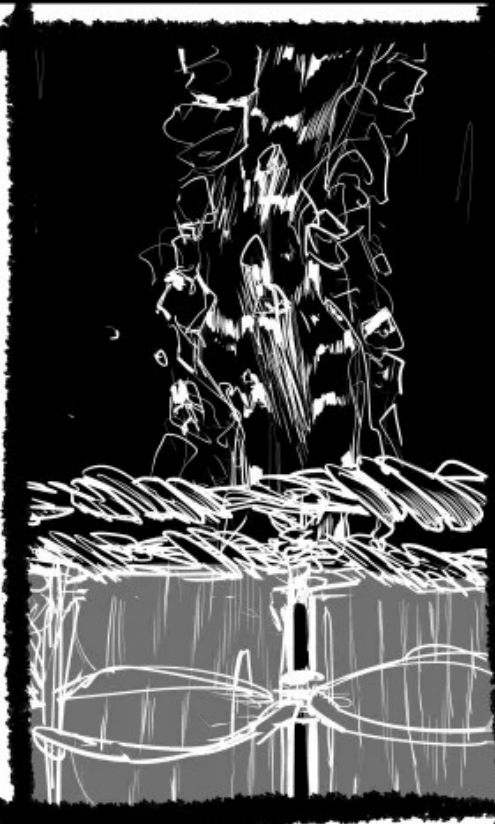
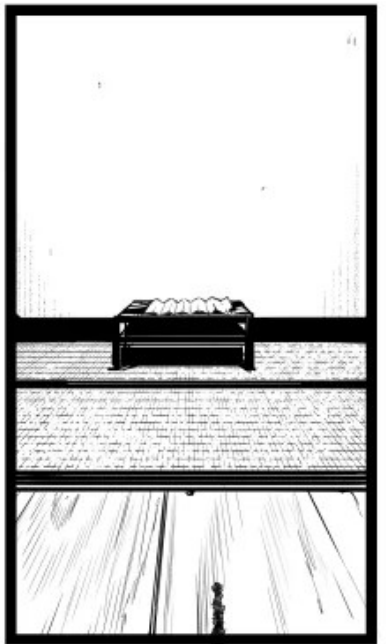
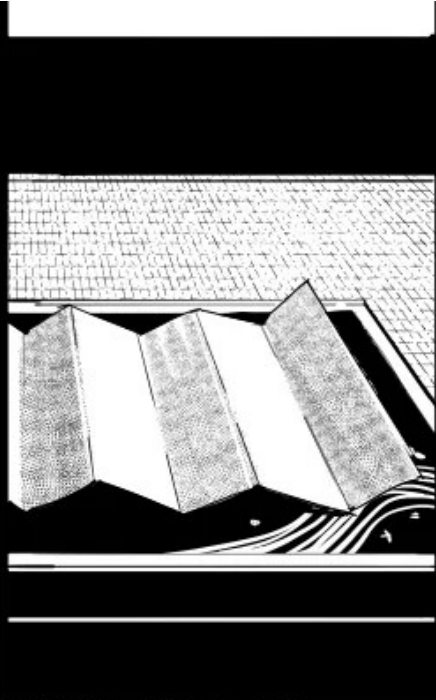
母さまより大事な人になれたかな...

叔父さまの...

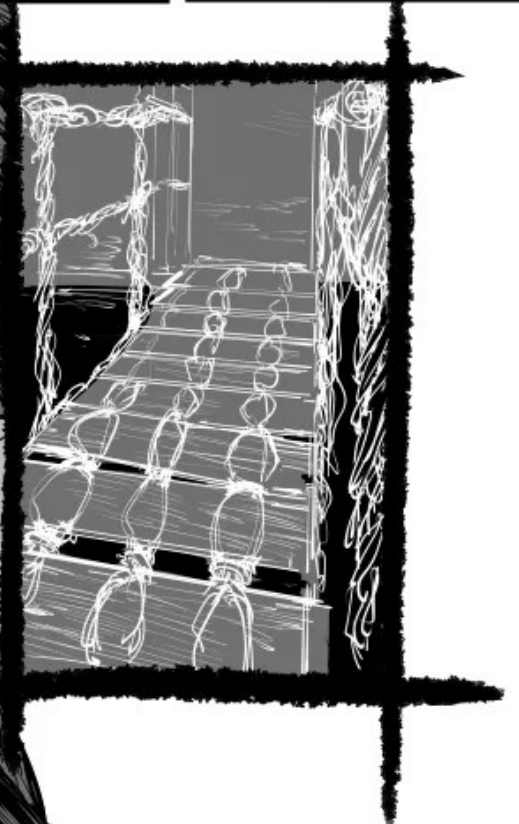
.....



こうなると  
わかっていて  
誘惑した



こうなると  
わかっていて  
あの言葉を選んだ



わかっていたはずだ

はあ

はあ



はあ

はあ



今も  
脳を焦がし  
続ける憧れ

大好きな  
叔父と



私の秤は

最後には必ず  
好きと憧れを  
秤にかける  
ときがくる

憧れに  
傾いてしまった

なんで  
こんなことに

もう叔父さまと  
話せない

正当化するな

最低な女

こんなことの  
ために

助けて

もう後に  
退けない

あの御姿を  
もう一度

必ず成功させる

他の何を

犠にして

月に行かなきゃ

私は悪くない

抗えない

ごめんなさい

生きてて

ほしかった


二人で一緒に

あの方のように

私が裏切った

他に方法は  
なかったのか





薄暗く  
襖に閉ざされた部屋

人肌と人肌が  
ぶつかる音

男女が  
交わる匂い



ここは  
私が望んだ  
蟲毒

子種を競わせ  
選り抜くため  
だけの場



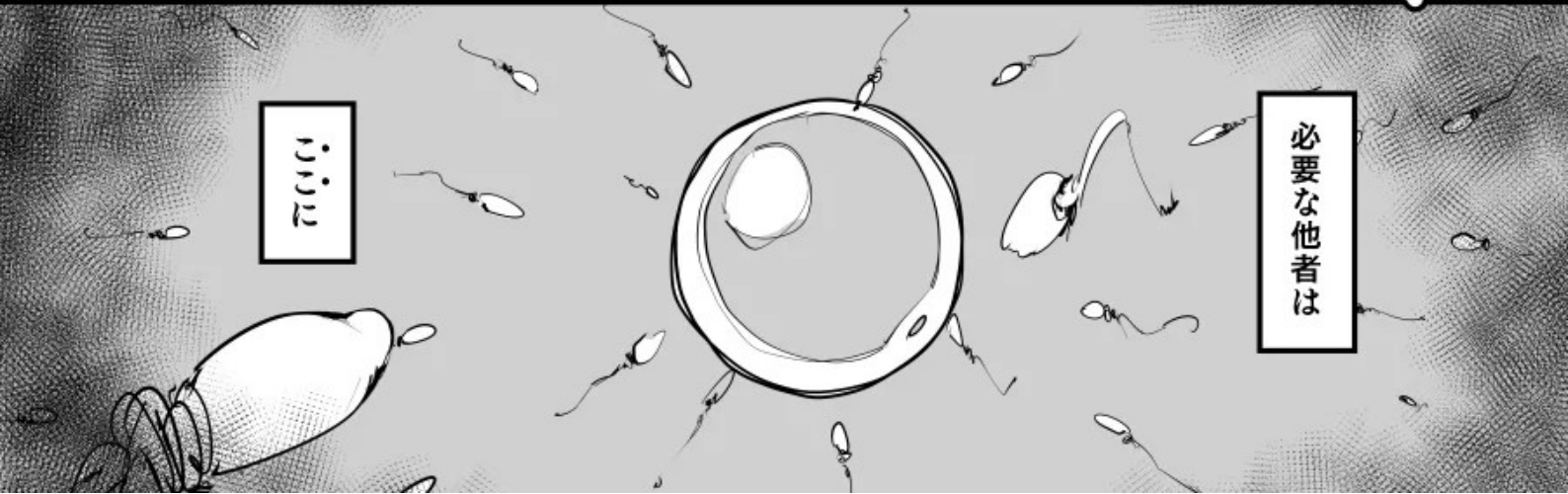
必要な情報は  
この眼で集めた



他者の肉体へ  
魂を移し  
生き永らえる  
不死の法



あの日  
帝が  
謳っていた



びん

必要な他者は

この家  
伏見の呪いは  
私だけのもの



どれほど  
時間が  
かかっても

私が月へと  
至るまで